羽幌タイムス

発行所
羽幌タイムス社
苫前郡羽幌町南6の4
☎ 62～2161 ㈹
ＦＡＸ62～2162

使ってお得な
日通プロパン
各種燃料
駒井
☎ 62－2377

＝羽幌炭砿大同窓会＝

鈴木商店枠組みによる観光の提案も
記念シンポジウムで炭砿を振り返る

コーディネーターの関さん（上）、炭砿のエピソードも語る平岩さん（下）

【羽幌】「羽幌炭砿大同窓会～鈴木商店を起源に炭砿を振り返る」実行委員会（室田憲作代表）が二十七、二十八の両日、サンセットプラザなどで開かれ、炭砿閉山４５年記念シンポジウム、三山炭砿巡りなどを通して、ヤマの歩みをしのんだ。

羽幌炭砿のルーツは大正期に三井、三菱などの財閥と競い合った新興「総合商社」神戸カネ辰鈴木商店の大番頭金子直吉、同商店は昭和二年の経済恐慌で破たんするが、人材を育てたことでも知られ、日本製粉、双日、帝人、昭和シェル、サッポロビールなどが現在につながる。

その親睦組織「辰巳会」が、鈴木商店の再評価を図るため、昨年四月、インターネット上に記念館をたちあげた。翌月には同商店を題材のドラマ「お家さん」が放映、年間三十二万人の来館者を呼んだ。

双日総合研究所の小林正幸主任研究員によると、羽幌炭砿は金子直吉が手がけた八十余のうちのラスト・プロジェクトだったといい、記念館では羽幌炭砿特集を企画、昨年七月の現地取材では、築別炭砿由来記やスケッチ集、遺産カレンダーなどを発刊する炭砿出身者で札幌Ｅ企画委員会の平岩博幸さん、羽幌在住の菊地瞳さんらが同行これをきっかけに、記念誌の編集、大同窓会の開催にいたった。

シンポジウムには羽幌炭砿出身者や辰巳会の関係者、住民ら約二百人が参加、関秀志さん（北海道史研究協議会副会長、羽幌町史の執筆、編集に携わる）をコーディーネーターに、双日総合研究所の小林正幸主任研究員、羽幌炭砿専務金子三次郎の孫（直吉の弟楠馬のひ孫）の直三さんが「鈴木商店の再興の夢をかけた羽幌炭砿」、「羽幌炭砿のあゆみ」を題に講演、駒井久晃町長は経済面から切り込んだ「炭砿と羽幌町」、平岩さんは「炭鉱（ヤマ）にいだかれて」、スケッチ画にかさねてヤマのエピソードも紹介し、会場をなごませた。

小林主任は炭砿関連を含めた鈴木商店の足跡を辿ったほか、「全国のいだるところに鈴木商店の史跡が残っている。鈴木商店を枠組みとした観光を考えられないか」、コーディーネーターの関さんに促され、「閉山のときに行方不明になった金子直吉の胸像をもう一度つくってはどうか。ファンなら訪れる。財源はふるさと納税、炭砿遺産を指定してもらう」と具体案も提示した。

金子さんは創業期前後の混迷期（昭和十四～十九年）、戦後の混乱期（二十～二十五年）、合理化推進期（二十六～三十年）、躍進期（三十一～三十六年）、エネルギー革命との戦いと閉山（三十七～四十五年）の五期に分けて羽幌炭砿史を解説、「争議を教訓に労使協調路線で生活環境の整備に力を入れ、さらに技術革新を推し進めて中小炭鉱の雄と言われるまでになった。もてる力を最大限に発揮したと思っている」と語った。

駒井町長は年間百万㌧を達成した昭和三十六年度と閉山後の四十六年度の町税収を比較し、町税は二八％から一三％にダウン、地方交付税が二四％から四四％に跳ね上がるなど現状の交付税依存体質になっていく。とりわけ固定資産税が大きかった。

平岩さんは羽幌駅～築別駅～上築駅～築別側の橋梁～曙分岐点～曙小中～太陽高～築別炭砿・山元本社～発電所～ジャンプ台～天の沢～修学旅行出発の様子～お祭り～羽幌坑～上羽幌～神社などのスケッチをバックに、山が崩れることにつながるから朝は白いご飯に納豆や卵をかけない、天の沢でクマに遭遇したら坂を駆け下りて逃げる、前足が短くて追ってこられないと聞いたなど、いくつかのエピソードも織り交ぜながら羽幌炭砿を振り返っていた。

二十七年度の町表彰を発表
星野恭司氏が特別功労表彰

【苫前】苫前町は、このほど今年度の町表彰者を発表した。前議長の星野恭司氏に特別功労表彰が贈られるほか、功労表彰に大川博文氏、勤続表彰が一人、寄付で善行表彰二人、感謝状が寄付四人、その他一人で、町内在住六十年以上八十歳以上の町民百五十四人となっている。町内在住者の感謝状は、昨年まで八十年以上在住としていたが、今年度から基準を改めた。

表彰式は文化の日の十一月三日午前十一時から、とままえ温泉ふわっとで開かれる。

受賞者、受賞理由は次の通り（敬称略）

『特別功労表彰』

▽星野恭司(80)＝苫前＝九期三十六年間苫前町議会議員、平成十五年から三期十二年間は議長に就任し自治振興に尽力した。また、苫前漁協理事、留萌中部森林組合理事、苫前厚生クリニック運営委員会委員などを歴任、町の伸展に貢献した。

『功労表彰』

◎産業功労

▽大川博文(60)＝三渓＝農業委員として十七年四ヶ月、自作農の維持、農地等の調整など農業の振興発展に貢献した。

『勤続表彰』

◎社会福祉関係

▽山本美智子＝古丹別＝社会厚生委員として十年以上勤続、地域社会、住民福祉の増進に尽くした。

『善行表彰』

▽五味和江＝神奈川県横浜市＝ふるさと応援寄付として三千万円を寄付

▽杉野廣美＝埼玉県越谷市＝一般寄付として百万円を寄付

『感謝状』

◎寄付

▽斉藤清晴＝登別市▽山田弘一＝苫前▽青木チヨ＝古丹別▽横内恵一＝旭川市

◎その他（新苫前町史編さんの執筆、監修）

▽関秀志＝江別市

＝二十七年産米出荷始まる＝
初出荷全量一等、低タンパク

【羽幌】オロロン農協（長谷川裕昭組合長）二十七年産米の出荷が二十八日、寿町の検査場で始まった。初出荷は羽幌ライスセンター（山岸辰男組合長）で調製した「ゆめぴりか」、整粒七三％、タンパク六・五％の全量一等の低タンパクとなっている。

同日現在でおおよそ四割の進捗状況だという。この日三十㌔紙袋、百六十袋の四・六㌧が初出荷、同農協農業振興部農産課長で農産物検査員の板本博英さんが整粒、水分、タンパク、アミロースなどを調べた。

長谷川裕昭組合長は「六月から七月中頃までの低温、日照不足で生育が遅れたが、不稔が少ないことや生産者の管理努力もあって平年作を上回っている」、北海道米麦改良協会の米陀眞技監も「今年は乳白、腹白の米が少ない。十分な太りと品種の特性を持つ米の出荷が期待できる」と話していた。

10月の星空

１０月になると季節風が強まって、紅葉の[illegible]

夏の大三角に代わる秋の目印はペガスス座にある四角形、秋の四辺形です。見ばえのす[illegible]

流星は９日にりゅう座流星群、２１日にオリオン座流星群があります。オリオン座は夜[illegible]

明け方の空で月や惑星が接近

今月は明け方の空で[illegible]

、金星が西方最大隔離となり、望遠鏡で見ると半月型に見えます。（以後丸くなる）

付近です。明るい流星も多く、ペルセウス座流星群やしし座流星群と同じように、流れた[illegible]

やすいです。

天文カレンダー

▽３日（土）小惑星[illegible]

▽９日（金）細い月と金星が大接近／りゅう座流星群が極大（１０／５～１０／１３）[illegible]

が西方最大離角（１８°）

▽１８日（日）火星と木星が最接近（０[illegible]

赤道通過、北半球へ

▽２６日（月）金星が西方最大離角（４６・５°）／金星が木[illegible]

１０：００～１９：００

▽水曜日　１０：００～１７：００[illegible]

中央公民館で「敬老の集い」
園児がお年寄り代表に花束

ステージで園児から山田さん夫妻に花束が手渡され、拍手が沸く

【羽幌】敬老の集い」が二十九日、中央公民館大ホールで開かれ、マチの発展のために頑張ってきたお年寄りの長寿と健康を願った。

町社会福祉協議会（江幡昭会長）が主催、六十五歳以上の住民、約三百人が元気な顔をみせた。江幡会長は「戦中、戦後の混乱期、昭和の激動を乗り越えて、家族や羽幌町発展のために頑張ってこられたみなさんに敬意と感謝を表したい。みなさんのご尽力でこの社会が築きあげられた。いつまでも壮健で長寿を重ね、心豊かな人生を送ってください」とあいさつ。

駒井久晃町長の祝辞に続いて、藤幼稚園の

田中響くん、南部
那ちゃんから、高
代表の山田義孝
(89)、サワエさん
婦に花束が贈られ
場は暖かい拍手に
まれた。
最後に老人クラ
合会の中野敏晴会
「郷土発展にいか
りの貢献したのか
からないが、地道

旭川凌雲高

【苫前】旭川凌
校吹奏楽局とまま
ンサートが十月四
後三時から苫前町
館講堂で開かれる。
入場料は五百円
場券は公民館ほか

十月一日付
人事異動発

【苫前】町は二
日、十月一日人事
を発令した。（カッ
は前職）
▽農林水産課長

古家売ります
○外部・内部　古家にしては良好です